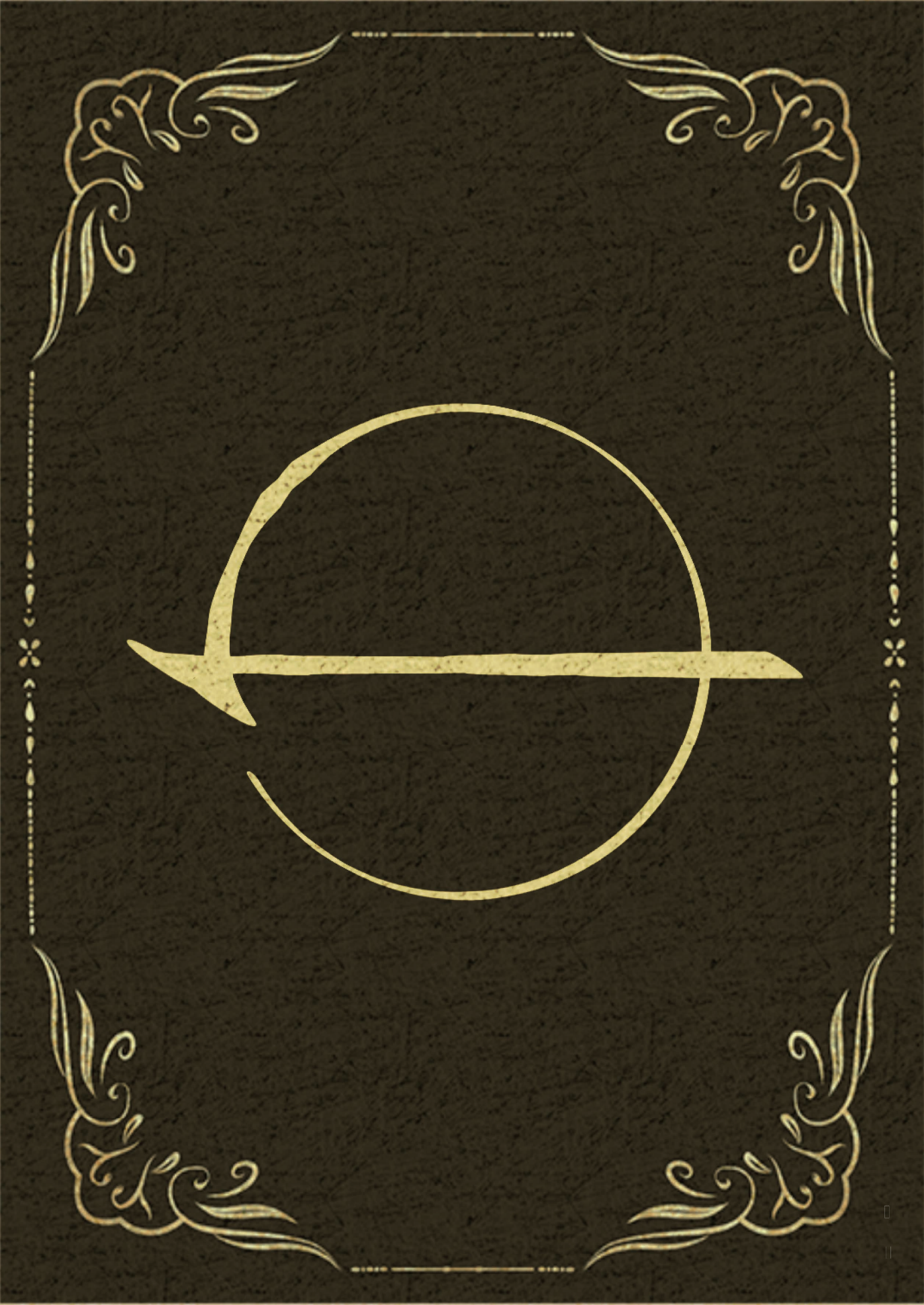




グレイベルの秘された地より、福音の鐘ぞ鳴る。
祝福の雨が降り、天より降り注ぐ光を人は見た。
光を背負い、娘を抱えた旅人が一人
大穴の底、杯に移る星々が問うた。

大地の祈り、陽の煌めき、水のせせらぎに至るまで
人よ、人よ。神無き大地で二本の足で立つ者よ。
清め、浄めよ。汝ら共に存り、大地へ祈れ。
御言葉を承りし者、即ちシャーマである。

ラウステンの地、白樺の並ぶ木立にて諍いぞある。
森人弓矢持ちて放ち、石人盾を持ちて突く。
聖なるシャーマが言葉をかけると、争いは確と止まる
なんぞある、相争うはいかに

森人怒りて告げる。聖なる森を切り開くゆえに。
土人猛りて吠える。否、森が神の山を蝕むゆえに。
それを聞きシャーマ、天に祈ると大地が揺れ、森と山に溝を創った。
瞬のうちに嵐が過ぎ、そこには河があった。

シャルムが問う。何故川をお創りになられたのか。
聖なるシャーマ其れに答える。深い憎しみを癒すには、途方もない時
を要するのだ。
シャーマ、森人と土人に告げる。その川は汝らが怒りを忘れ、手を取り
合ったとき露と消えるだろう。
双方、ともに父の威光を目の当たりにし、頭を垂れて祈りを捧げん。

サリズンの地、デリングレーにて無辜の犠牲ぞある。
人々、巨大な樹に鋸を入れ引き倒さんとする。
しかし、樹は揺れに揺れ人々を振り払わん。
聖なるシャーマ、それを見て怒り走る。なんぞ彼を伐るか。

人々、たちどころに戸惑い鋸を止め口々に告げる。
旅人よ、私たちはただ王に命じられこの樹を伐っているのです。
聖なるシャーマが枝をかき分けるとその奥に眠る美しい顔があった。
シャーマ告げる。彼は古いツリーフォークである。

人々が戸惑う最中、北より王の使者ぞ現れる。
旅人よ、邪魔をしてくれるな。これは王命である。
シャーマは私に任せよと言い放ち、ツリーフォークの顔を叩いた。
そして二三言かわすと彼はするりと立ち上がり彼方へ消えた。

エレンコールに近い村に災いあり。
シャーマが赴くと、獣人が磔にされぶたれるのを見やる。
なんぞある、この獣人の仕打ちやいかに。
人々口々に告げる。この牙で娘を食い殺したのだと。

獣人は訳も分からぬ唸り声をあげる。
人々口々に罵る。見たことか、こやつは恐ろしい獣だ。
しかし聖なるシャーマは首を振り、告げる。
これは獣人にあらず。獣憑きであると。

聖なるシャーマ、天に祈ると獣人の毛がたちまちに抜け落ち、一人の男が落ちる。
人々どよめき、男に石を投げる。シャーマ、其れを手で制すると告げる。
この男に罪は無し。だが貴方方の怒りは尤もである。
聖なるシャーマ、その男をお弟子になさる。彼こそがシモンである。

モルズバロウの地に虐げられし者あり。
旅路を往く途中薄汚れたディグリング、聖なるシャーマへ頭を垂れる
ディグリングよ、なしてそれほどに薄汚れているのか。何がお前をそ
うしたのか。
ディグリング、頭を深く垂れて請う。モルズバロウ、モルズバロウで
ございます。

聖なるシャーマ、その一言で全てを理解しお弟子たちに告げる。
シャルム、シモン、お前たちはこの憐れなディグリングをどう救うか。
シャルム曰く、一日一食のパンと安らかな寝床を与えればよい。
シモン曰く、主人を罰し悔い改めさせるとよい。

シャーマ、どちらも首を振り告げる。
シャルムの案では現状は変わらず、シモンの案では禍根が残る。
聖なるシャーマ、モルズバロウに赴き問う。
主人よ、なしてこれほどまでにディグリングをこき使うのか。

主人曰く、モルズバロウの穴は小さく、中に入れるのはディグリング
のみ。
シャーマが祈りを捧げると、モルズバロウの穴が広がり人も通れるほ
どになった。
聖なるシャーマ告げる、これでディグリングだけをこき使うことはな
い。よく話し、よく働け。
さすれば共に、父なる神に見初められるだろう。

レヘル of 森に人を攫うオークあり。
旅路を往くシャーマに人々並びて頭を垂れ請う。
我らの娘、息子、子々孫々に至るまで全てをあなた方へ捧げる。
代わりに森に住まう人さらいの鬼を退治めされよ。

聖なるシャーマ、森へ向かいオークへ告げる。
しかしオーク、手に持った槌を叩きこれを拒絶する。
聖なるシャーマ、其れから二度告げるもオークは受け入れず。
仕方なくシャーマが祈るとオークは灰となり消えん。

ウルズ王国に竜の影あり。
シャーマ、川岸に打ち捨てられた竜人を見やりこれを癒す。
なんぞ、そのような仕打ちを受けん。
竜人曰く、山の頂に悪竜あり。人々は我らをあれの子だと謗るのです。

聖なるシャーマ、竜人を抱き再度祈りを捧げ告げる。
その人々の元へ連れて行きなさい。汝らは悪竜にあらず。
竜人は大層感動し、人々の元へ連れて行った。
ウルズの人々は竜人を見やると石を投げこれを拒む。

しかし聖なるシャーマが祈ると、石はとたんに勢いを失い地に落ちた。
シャーマ告げる。彼は悪竜にあらず。なしてそのような仕打ちをする。
人々は口々に告げる。否、そ奴は悪竜である。我らの麦を盗み申した。
シャーマ、一人の女を指し告げる。否、麦を盗んだのはその女だ。

盗人の女、シャーマの威光に恐れをなし、罪を告解せん。
人々口々に女を罵るがシャーマまたこれを制す。
なんぞ、そのような愚かな行いを成さん。
女曰く、悪竜に我が家の畑を焼かれ、一つの芽も出なくなったゆえに。

それを聞き、聖なるシャーマ畑へ赴く。人々もぞろぞろと後に続く。
そしてシャーマが祈りを捧げると、焼け焦げた大地から緑の芽が現れた。
シャーマ告げる。私の祈りは大地の祈り。父なる神アイオーンへの請願である。
よく話し、よく祈れ。さすれば共に、父なる神に見初められるだろう。

白壁山脈の頂に悪竜あり。
聖人シャーマ、これを調伏せんと山へ登らん。
ウルズよりシャーマを師とする者たち集う。
弟子たち、樹を伐り山を拓き、頂へ至る道を作らん。

聖人シャーマ、人々に祝福を与えん。
よく話し、よく祈る者たち、汝らはアイオーンの子である。
すると人々の疲れがたちどころに消え去り、豆の一粒で朝夕働いた。
シャーマとその弟子たち、やがて頂へ至らん。

悪竜、シャーマを見やりあざ笑う。
人よ、よもや私を殺さんとするか。
聖なるシャーマ告げる。否、私はお前を救いに来た。
悪竜、さらにあざ笑い火を放ち、シャーマを焼き尽くさんとした。

聖なるシャーマこれを止めると悪竜に問う。
なんぞ、そのような悪行を成す。
悪竜告げる。それが性根ゆえに悪を成すのだ。
弟子たち、悪竜の魔に侵され次々に倒れ伏す。

その時、山の背から次々と兵が現れた。
すなわちラウステン、サリズン、モルズバロウ、レヘルの者たちである。
兵たち、悪竜の鱗に次々と剣を突き立てる。
悪竜はあざ笑う。そのような針で私をいかんとするか。

聖なるシャーマ、大地へ祈りを捧げる。
すると突き立てた剣たちが水に沈むように悪竜を貫いた。
シャーマ、告げる。悪竜よ。お前は私に敗れたのではない。
よく祈り、よく話す者たちに敗れたのだ。

悪竜は告げる。大地は穢れであふれ、魔神の目覚めを待っている。
その時、お前たちは塵のように無様に消え去るだろう。
シャーマ告げる。であればひたすらに大地を浄化するのみ。
そして来たるべき時に父なる神アイオーンへこの大地を返さん。

イエールの地に老いた聖者あり。その人、即ちシャーマである。
聖なるシャーマ、各地より集まった弟子たちに告げる。
人々よ。大地を浄めよ。私が穢れの半分を持って行こう。
よく話し、よく祈れ。さすれば共に、父なる神に見初められるだろう。

